

地域の高齢者が安心して暮らしていける場を みんなで考え作っていく事業

年を取って介護が必要になっても、あるいは認知症になっても、当たり前、そして自分らしく地域で暮らし続けられたらどんなに幸せでしょう。

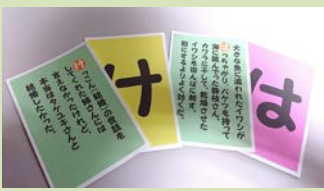
NPO 法人ユートピアでは、高齢者が安心して暮らしていける地域をみんなで作っていくための環境作りをめざし、平成 28 年度に沼津市民（介護・医療の専門職だけでなく一般の地域住民も含む）を対象にして、3つの講座を実施しました。

聞き書きワークショップ

開催日：平成 28 年 10 月 1 日 場所：プラサヴェルデ 403 会議室

参加人数：36 名（予定定員 20 名） 介護・看護・医療の専門職の方の他、介護をしている家族等
講師：六車由実（NPO 法人ユートピア理事、デイサービスすまいるほーむ管理者・生活相談員、介護民俗学実践者）

内容：お年寄りにお話を聞いて、地域の暮らしについて研究する民俗学の方法「聞き書き」。この「聞き書き」を介護現場に取り入れて、利用者さんとスタッフとの対等な関係性や開かれた介護現場を作っているデイサービスすまいるほーむにおける実践を紹介し、グループワークにて、みんなが協同で参加するオープンな聞き書きによるかた作りを体験してもらいました。最後に、それぞれ作ったかたを紹介し合い、介護現場や医療現場における関係や場づくりについて意見交換しました。



事業効果：アンケートでは、「講義とグループワークがあり、とてもわかりやすかった」「聞き書きからコミュニケーションが広がるのを感じた」等の評価が寄せられました。

「聞き書きかた」という初心者でも取り組めるツールで聞き書きの面白さをみなさんが実感し、それぞれの職場で実践したいという声が多く聞かれました。そして実際に、現場や地域に帰って聞き書きを始めているという報告も何人かの参加者から受けています。介護や医療現場、そして地域がより豊かな人間性にあふれたフィールドになるように、深いコミュニケーションツールとしての「聞き書き」の普及にこれからも努めていきます。

認知症の人と共に生きる地域づくりの実践をしている「富士宮モデル」の視察

開催日：平成 29 年 3 月 16 日

参加人数：14 名（NPO 法人スタッフ、中今沢結いの会メンバー、今沢地区社協、沼津社協、連携機関の方）

内容：認知症の人を単なる支援の対象者として見るのではなく、認知症になっても安心して暮らせる地域を作っていくためのパートナーと位置づけ、認知症当事者、地域住民、行政とが協力して地域づくりを進めている「富士宮モデル」について理解し、沼津の地域づくりに活かしていくために、実際の現場のうち二つの視察を行いました。



@黒田よりあいサロン（富士宮市黒田 242）

毎週木曜日に認知症の方と地域のボランティアが参加して開いているよりあいサロンでは、特別なプログラムは立てず、みんなが 1 時間近く一緒にお喋りをすることに徹していました。それが、スタッフに負担をかけず、継続させていく秘訣だということでした。



@木工房「いつでもゆめを」（富士宮市栗倉 2736-3）

男性の若年性認知症の方たちの就労の場であり、スタッフの助けをかりながら、車椅子用体重計やベンチを製作し、本人たちが営業や販売もしています。認知症の方が社会における役割を持ち、それが生きる意欲につながっている様子を目の当たりにすることができました。

事業効果：認知症フォーラムで稲垣康次氏が主張されていた認知症の本人を単なる支援の対象ではなく、共に地域や社会を作っていくパートナーとして関わるあり方について具体的に学ぶことができました。沼津における地域づくりの方向性を参加者で共有できました。

認知症フォーラム

認知症当事者の声から私たちが学ぶこと—誰もが生きやすい社会を目指して—

開催日：平成 29 年 3 月 4 日 場所：沼津市立図書館 4 階視聴覚ホール

参加人数：170 名（予定定員 150 名）沼津市内を中心に、静岡県東部地区他、東京、大阪からも参加。
講師：樋口直美氏（レビー小体型当事者）、稲垣康次氏（NPO 法人認知症フレンドシップクラブ富士宮事務局）、笠間睦氏（榊原白鳳病院診療情報部長、脳神経外科認知症専門医）
進行：六車由実（NPO 法人ユートピア理事、デイサービスすまいるほーむ管理者・生活相談員、介護民俗学実践者）



樋口直美氏は、「認知症」とひとくくりにならざることで起きる弊害や差別があることや、レビー小体型認知症の幻覚や自律神経障害、薬剤過敏性などのあまり知られていない症状について自身の経験から話をしてくれました。

稲垣康次氏は、認知症当事者を中心に、行政、地域住民、専門職が連携し話し合いをしながら、本人が生きやすい場を作っていくこと、「支援する」という立場ではなく、共に生きる「パートナー」として本人と対話を続けることが重要であると主張されました。



笠間睦氏は、医療現場の認知症の告知では、「希望」とともに伝えることが大切であること、終末期医療について本人の意思を確認できる事前指示書を作成しておくことが、本人にも家族にとってもよりよい終末期を迎えるために必要不可欠だと主張されました。

後半は、3 人の講師とともに、事前に集めた「認知症の方をめぐる介護・医療現場や地域における体験談・意見」のアンケート資料（当日配布）をもとに、医療現場や介護現場で「おかしい」と言えるようにするためにはどうしたらよいか、また認知症の本人も家族と共に幸せになるためにはどのようにしたらよいか、といったテーマについて議論しました。



事業効果：事前に、認知症の方をめぐる介護・医療現場や地域での体験談や意見を募集したこともあり、フォーラムへ参加するにあたって、参加者のみなさんには、認知症について自分事として考えるスタンスが共有され、フォーラムへの関心も高まっていたようでした。また、アンケートには、実際に当事者の話を聞くことで、「認知症になったら何もわからない」という見方がいかに偏見に満ちたものであり、今まで認知症の本人に人として認知症の本人に人として向き合ってきたか、ということも多く参加者が感じた、といった感想が多く寄せられました。全体を通して、認知症の当事者や家族を、専門職や地域住民が対等な立場で支え合っていくことの具体的なイメージを参加者ももつきっかけになったのではないのでしょうか。

NPO 法人ユートピア

NPO 法人ユートピアは、急速な高齢化社会の進展に対し、高齢者とその家族及び地域に、会員の持つ専門的知識・技術等や社会奉仕への意欲をもって貢献し、高齢者が尊厳をもって安心して過ごせる地域社会の実現のために活動することを目的に設立した法人です。

代表者●村松誠 所在地●静岡県沼津市今沢 508-23 連絡先●055-969-0180

URL●<https://npoutopia0180.jimdo.com/> e-mail●npoutopia0180@yahoo.co.jp

平成 29 年度は連続講座「認知症の人が当たり前で暮らせる地域を作るために」を 11 月から開催します。詳しくは、法人へお問い合わせください。